



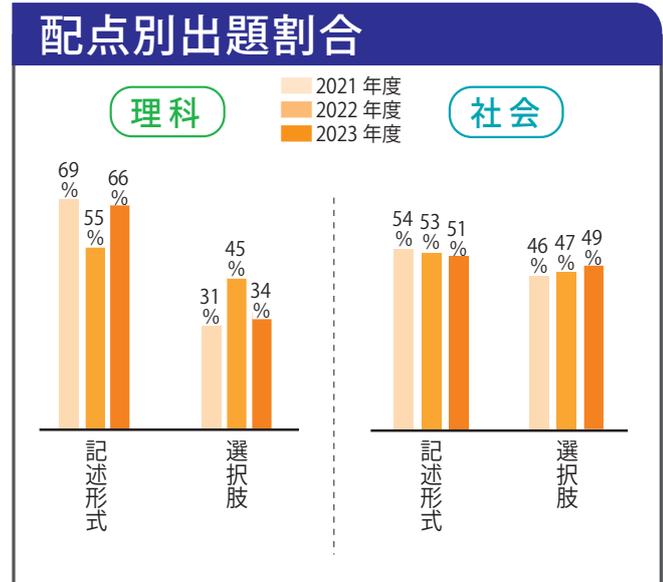
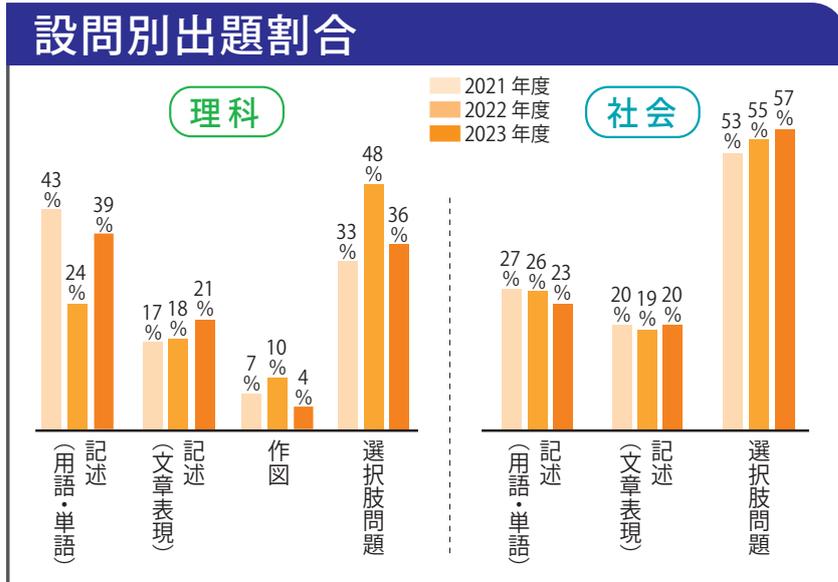
入試に向けての土台づくり

知識のつながりを意識した学習

埼玉県公立高校入試や会場テストでは、基本的な知識の出題はもちろんですが、配点の半分以上は計算問題や作図、記述形式の出題です。そのため、語句の丸暗記だけでは高得点は取ることができません。各単元の深い内容理解が必要になります。授業では、どうしてそうなるのか、どうしてその実験・作業を行うのか、結果の読み取り方など、各単元の重要ポイントを完全解説します。実験・観察問題にも取り組み、暗記だけでなく、仕組みや現象を理解し、原理原則を利用できる力を養っていきます。

埼玉県公立高校入試や会場テストだけではなく近年の定期テストでは、単純な知識を問う問題だけではなく、思考力、判断力、表現力等の能力をみる問題が出題されます。高得点を取るには、知識の定着はもちろん、思考力、判断力、表現力が問われる問題、それぞれのことからの原因・結果を、他の知識と組み合わせて導き出す力を身につける必要があります。授業では、重要知識の定着とともに、それぞれの単元・語句の関連性を指導することで、埼玉県公立高校入試や会場テストおよび定期テストの問題に対応していきます。

▶ **記述問題重視の入試問題** 近年の入試問題では、文章表現を含む記述問題の出題割合、配点がともに高い傾向にあります。



グラフは2021年度から2023年度の埼玉県公立高校入試問題における、理科・社会の「設問別出題割合」と「配点別出題割合」です。記述問題の割合について、理科は約50～70%、社会は約40～50%と高い割合を占めており、そのうち、文章表現に関する問題は、理科も社会も約20%となっています。配点で見た場合はどうでしょうか。記述形式で出題された問題の合計点は、理科では55～69点分、社会では51～54点分、設問数と同様に、理科・社会ともに高い配点となっています。 **「基本的な知識の習得」を早い段階で完成させ、「記述力のアップ」を目指す勉強が求められています。**

⇒山手学院では『**一問一答式用語問題集【理科】**』や『**記述対策問題集【社会】**』の教材で知識の定着・記述力の向上を目指します。

▶ **2024年度入試 全県平均と山手平均(受講生)との差**

教科	国語	数学	数学	英語	英語	理科	社会
		(学校選択)	(学力検査)	(学校選択)	(学力検査)		
全県平均	58.1	50.2	51.7	54.8	53.4	51.6	65.7
山手平均	72.4	54.0	64.0	57.1	70.4	69.9	82.0
差	+14.3	+3.8	+12.3	+2.3	+17.0	+18.3	+16.3

表は2024年度の埼玉県公立入試における全県平均と山手生の平均点の差を表したものです。どの教科も全県の平均点を上回る結果になっていますが、特に**理科・社会では16点以上の差**をつける結果になりました。5教科の合計点で合否を決める県公立入試では、理社で他の受験生に大きな差をつけることが志望校合格のポイントになります。